

前立腺癌のために受診中あるいは受診経験のある 患者さんまたはご家族の方へ (臨床研究に対するご協力をお願い)

獨協医科大学埼玉医療センター泌尿器科では、上記の病気で受診された方の診療情報を使用して臨床研究を実施いたしております。本研究に該当する可能性のある方のご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また、ご協力いただけない場合であっても今後の治療に不利益を受けることはございません。

本研究への協力を望まれない患者さんおよび本研究の詳しい内容（実施計画書・関連資料等）について閲覧になりたい方は、下記の【問い合わせ先】までご連絡をお願いします。

【研究課題名】

アンドロゲン遮断療法および新規アンドロゲン受容体シグナル阻害薬併用療法を施行した転移性去勢感受性前立腺癌患者の予後因子の検討

【研究の背景と目的】

転移のある前立腺癌に対しては、従来のアンドロゲン遮断療法に早期からドセタキセルを用いた化学療法やアピラテロン、エンザルタミド、アパルタミドといった新規アンドロゲン受容体シグナル阻害薬を併用する治療が一般的となっています。この治療により大部分の方は病気の進行が抑えられることが証明されていますが、一部で十分な治療効果が得られないこともあり、未だに効果を予測する方法については、解明されていません。この研究では、患者様のカルテデータを使用して治療前および治療後の採血データを調査し、より正確に治療効果を予測することができる検査項目の有無について、明らかにすることを目的としています。

【対象となる方】

2014年4月1日から **2026年3月31日**までの間に、転移性去勢感受性前立腺癌の診断でアンドロゲン遮断療法に併用して新規アンドロゲン受容体シグナル阻害薬併用療法(アピラテロン、エンザルタミド、アパルタミド)を開始した患者を対象とします。

【使用する検体・診療情報】

診療情報：診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果（血液検査、画像検査、病理検査）

なお、収集したデータは、研究責任者のもと適切に保管・管理致します。

また将来的に本研究データを他の研究に活用させて頂く可能性もございます。その際は当院倫理委員会で承認を受け、再度情報公開書を掲示いたします。

【研究期間と参加予定人数】

この研究は2022年9月の当院臨床研究倫理審査委員会承認後、病院長許可日（2022年8月22日）から **2031年3月31日まで**実施され、**150名**の患者さんが対象となっております。

【個人情報の保護】

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを特定出来る個人情報は削除し、収集されたデータは、個人が特定できないよう通し番号などで匿名化されたのち解析を行います。

また、使用したカルテ情報を廃棄する際も個人情報を削除して廃棄いたします。

【結果の公表】

この研究の研究成果は今後関連学会および学術雑誌で発表予定ですが、その際も患者さんを特定できる個人情報は公表いたしません。

【研究責任者】

獨協医科大学埼玉医療センター 泌尿器科 齋藤 一隆 (教授)

【問い合わせ先】

獨協医科大学埼玉医療センター 泌尿器科 担当者：中山 哲成 (学内講師)

山本 佳子 (CRC)

埼玉県越谷市南越谷 2-1-50 電話番号：048-965-4944 (泌尿器科外来直通)

受付曜日：月～金 午前9時～午後5時

以上